校 長 室 だ よ り（No.7）

令和４年６月８日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

丹波市内において、地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」が始まりました。兵庫県では、「兵庫型キャリア教育の推進」の中で、小学校段階では、「学校や家庭、地域における役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性等を養う」こととしています。中学校段階では、まちづくりへの提言など社会への参加を体験する学習がトライやる・ウィークにつながり、高等学校段階では、地域の課題を発見し、課題解決に取り組む「ふるさと貢献活動事業」等に発展しています。

キャリア教育とは、一人ひとりの社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことです。キャリア発達とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分とその役割の関係を見出していく積み重ねのことだと言われています。

現在、産業構造や就業構造の変化、職業に対する社会の認識、子ども、若者の考え方の変化など、社会全体を通じた構造的課題が存在し、様々な問題が発生しています。例えば、学校から社会や職業への移行が円滑に行われていないため高等学校卒業者や短期大学卒業者の約４割、大学卒業者の約３割に早期の離職がみられています。また、コミュニケーション能力等の職業人としての基本的な力の低下により職業意識、職業観の未熟さがあったり進路意識、目的意識の希薄な進学者が増加したりしています。これらの問題を解決していくためには、この問題を若者個人の問題とせず、社会全体がこの問題を認識し、一体となって対応していくことが大切だと考えます。特に学校においては、キャリア教育、職業教育を充実したものにしていくことが大切です。

このキャリア教育は、先ほど述べましたように幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じて体系的に実施していく必要があります。実施に当たっては、様々な教育活動を通じて「基礎的・汎用的能力」を中心に育成していく必要があります。（基礎的・汎用的能力とは①人間関係形成、社会形成能力　②自己理解、自己管理能力　③課題適応能力　④キャリアプランニング能力の４つのことを指しています。）

各発達段階ごとに考えますと幼児期では、自主的、自発的な活動を促すことを大切にした取組を続けます。小学校段階では、社会性や自主・自立性、関心、意欲等を養います。中学校では、社会における役割や将来の生き方・働き方を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路選択や進路の決定に導きます。高等学校以降では、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これらを通じ、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成し確立することが求められます。

このトライやる・ウィークを通してどんな職場で体験しようとも、自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し、行動し、よりよく解決する資質や能力を身につけ、様々な体験を通じて家族で話し合い、親子をはじめとする家族のきずながより強まればと考えます。将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための礎が、この一週間の体験学習で一つでも積めればと思います。